

文部科学省委託「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」
モデルプログラム（2017年度版）を活用した授業・研修事例
現職教員の研修 No.2

平成30年度日本語指導が必要な児童生徒支援研修会 掛川市

検証実施機関（団体）：静岡県教育委員会 掛川市教育委員会
静岡県教育委員会 静西教育事務所 南里 哉子

1 検証対象の研修・授業について（該当するものにチェックを入れてください。）

養成／研修	<input type="checkbox"/> 養成 <input checked="" type="checkbox"/> 研修
タイプ	<input checked="" type="checkbox"/> 基礎教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門教育 <input type="checkbox"/> 支援員教育
研修・授業日（期間）	2018年 7月 5日
総時間数	115分
研修・授業科目名	平成30年度日本語指導が必要な児童生徒支援研修会 掛川市
受講者	人数（28人） 年齢層：20～60代 外国人児童生徒等教育の経験：ほぼ有り 日本語指導（成人対象を含む）の経験：ほぼ有り

2 地域及び学校現場の外国人児童生徒等の受け入れの状況

(1) 当該自治体における外国人児童生徒等の数・分布とその民族背景

全体的に増加傾向にある。ブラジル人児童生徒が最も多いが、近年ではフィリピンやペルーにルーツを持つ児童生徒が増加している。

(2) 当該自治体における外国人児童生徒等の受け入れ・指導体制

加配教員が配置された学校は小学校2校。配置校では特別の教育課程が編成でき、個に応じた計画的な日本語指導が可能となった。加配が配置されていない学校では、人員不足もあってなかなか取り出し指導ができていない。

市として4名支援員を雇用しており、内2名がポルトガル語、1名がスペイン語、1名がタガログ語に対応し、保護者との面談時の通訳や児童生徒への学習支援に携わっている。

(3) 外国人児童生徒等教育に関わる教員（一般教員を含む）、支援員の教育力の課題

取り出し指導（特別の教育課程編成）に熱心な教員とそうでない教員の差が激しい。集住地区か他地区かの違いによるところが大きいようである。

市として、今後は日本語だけでなく教科指導も力を入れていきたいそうだが、どのように指導していけばいいか経験やノウハウがない教員・支援員が多く、また翻訳さえすれば理解が進むと考えている人も存在するため、日本語支援だけでなく子ども第二言語習得などについて学ぶ機会が必要である。

3 研修・授業の成果について

(1) (受講者アンケートより)

①受講者の研修への期待

- ・学習指導の工夫、指導方法
- ・コミュニケーションの取り方
- ・進路

- ・発達障害の可能性のある児童生徒への支援
- ・学校や教育委員会の関わり方
- ・指導員がいない中での指導方法
- ・保護者対応
- ・実践事例
- ・外国人児童の良さを生かした授業づくり
- ・日本語指導の基礎
- ・保護者との連絡の取り方

②受講者の研修内容の理解度・満足度

期待と内容が

- | | |
|---------------|-----|
| ・ほぼ一致 | 28% |
| ・だいたい一致 | 68% |
| ・あまり一致していなかった | 0% |
| ・全く違っていた | 0% |

③関心を高め、教育力の向上を促したと考えられる内容・活動

- ・外国人児童の様々な動向
- ・外国人児童保護者への具体的対応
- ・実践事例
- ・やさしい日本語の具体例
- ・岩倉市の実践
- ・外国人児童の進路

④受講者が今後望む研修・授業の内容と活動

○研修内容

- ・日本語の教え方に関する教材の作り方
- ・ブラジルでの教育実態
- ・日本語の困難な子への具体的指導
- ・生徒の心の中
- ・現在の体制でも実現できる指導のあり方
- ・日本語の教え方
- ・取り出した際の教授法
- ・保護者対応
- ・先進事例だけでなく、小規模校など同様の悩みを抱えた学校の実践例
- ・集団生活の中でのコミュニケーションのとらせ方
- ・外国籍児童の社会参画への支援について
- ・地域とのつながりをもたせていく方法について
- ・外国人児童向けのサイト紹介

○研修のタイプ

- ・事例を聞く
- ・講義形式

- ・設定したテーマに関する話し合い

(2) 研修企画の立場から見た、研修の成果と課題

受講者の期待と実際の研修内容はだいたい一致しており、良かった。

岩倉市は市全体で日本語支援を行っており、掛川市とは規模も実情も異なっているため、参考になるか不安な部分もあったが、やさしい日本語についての講義や、市教委が作成する児童生徒情報についての書類など、明日から実践できそうな内容を取り扱っていただいたため、結果的に得るものがあった研修になったのだと思う。

掛川市では加配教員が配置されていない学校において取り出し指導がほとんどなされていない。原因は人員不足などいくつか考えられるが、教員が特別の教育課程を編成する必要性を感じていない点も挙げられる。今後は特別の教育課程について外国人担当以外の教員にも研修を行う必要がある。

4. モデルプログラムについて

(1) 養成・研修内容構成（報告書 pp. 72-76）について（意見）

内容が基礎・専門・支援員向けにそれぞれ書かれており、大変わかりやすいが、様々な立場の方が参加される研修においては、「<支援員>と書いていないから取り扱ってはいけないだろうか」と悩んでしまう項目もある。よって、項目によってはカテゴライズされていない方がいい場合がある。

(2) モデルプログラム（報告書 pp. 207-244）について（意見）

内容によってどのような活動をしたらいいか考える上では非常に参考になった。講師やファシリテーターとして研修を進める身であれば、更に多くの活動が出てくるはずなので、例えばウェブ上で実際に行った活動について簡単な実践報告ができるような場があればより良い研修が作れるのでは。

(3) モデルプログラムの活用で研修の運営が円滑になったか。

現場の声をそのまま研修に活かせる立場であれば、ガイドブックのような存在になってくれると思う。現場と講師の仲介役だと、どちらかがモデルプログラムを知らなければ逆にやりにくくなる（こちらがモデルプログラムの内容を想定していても、講師側がそれを知らなければ意思の疎通が難しくなるため）。

(4) モデルプログラムの活用を通して、研修・養成で、どのような力を高めてほしいか。あるいは、高めるためには、どのような活用の仕方が必要だと思うか。

日本語支援に関する様々な知識を吸収し、実践に活かす力。

講義を聞くだけでなく、グループワークなど個別に考える活動も必要になるため、研修を組み立てる際にモデルプログラム内の活動を参考にすると良いのでは。